

簡易抄録集

「研究発表」

=====

■ R-1 ルーム1 14:00-14:18

【発表題目】

新型コロナウイルス緊急事態宣言下における、
子どもの余暇の過ごし方について

【発表者】

○井上 恵里（公財）ひの社会教育センター
寺田 達也（公財）ひの社会教育センター



【簡易抄録】

本調査では、新型コロナウイルス感染拡大による休校期間前後の子どもたちの生活状況や問題点を考察する。感染拡大により強制的な「ゆとりの時間」を与えられた子どもたちの生活様式に変化が訪れ、以前より社会的課題であった「遊ぶ時間の増加」が「ゆとりの時間」によって実現できたのかを考察する。調査は幼児～中学生までの子どもがいる保護者とし、生活習慣や学習状況、外遊びなどの項目から設問を構成した。

主な結果を示す。「休校期間でどのような変化があったのか」の問いに対する自由記述には、小学生 77%、中学生 81%の保護者が「家族とのかかわり」「時間的ゆとり」が得られたと回答した。また、「休校前に外遊びをしていなかった」と「休校前に自然へのふれあいに興味がなかった」の項目に相関がみられた（ $r = .383, p < .001$ ）。しかし「休校後に自然へのふれあいに興味を示すようになった」との項目では負の相関がみられた（ $r = -.220, p < .001$ ）。

子どもたちの外遊びを促進するためには時間以外の要素も必要で、外遊びの良さやリスクを熟知している自然体験指導者の力がより求められるようになるのではないかと考えられる。

=====

■ R-2 ルーム1 14:20-14:38

【発表題目】

長期自然体験活動が小学生の学校における適応感に及ぼす影響
S小学校セカンドスクールを事例として

【発表者】

○小澤 孝亮（筑波大学大学院）
渡邊 仁（筑波大学）



【簡易抄録】

長期自然体験活動が児童の学校における適応感に及ぼす影響を明らかにすることを目的とし、長期自然体験活動として、S 小学校の「セカンドスクール」を取り上げて調査を行った。対象は5年生児童63名である。同セカンドスクールは2019年9月29日から10月6日にかけて行われ、実施前の登校日である9月27日を pre、実施後の登校日である10月10日を post として調査を行った。尺度には「小学生用学級適応感尺度(江村ら,2012)」を一部改変したものをを用いた。

因子ごとの t 検定を行った結果、全因子において平均値の僅かな向上がみられたが、有意な変化ではなかった。S 小学校では、学年をいくつかのグループに分けて活動や宿泊しており、そのグループ編成は仲の良い者同士になる可能性が高かった。それは各グループの排他性を高め、適応感に負の影響を与えた可能性がある。しかし、児童が互いに励まし合い、認め合う場面もみられ、それは適応感に正の影響を与えていたと思われる。それらの要素が互いに打ち消し合うようなはたらきをしまい、児童の適応感に有意な変化がみられなかったのではないかと考えた。

=====

■ R-3 ルーム1 14:40-14:58

【発表題目】

民間野外教育団体の組織キャンプにおけるプロダクト構造の分析

【発表者】

- 矢野 達也 (大阪体育大学大学院)
- 伊原 久美子 (大阪体育大学)



【簡易抄録】

マーケティングにおいて、事業戦略における優位性を確保するためには、マーケターが扱う商品としてのプロダクトの構造を理解して市場に提供されるプロダクトの品質向上に努めなければならないという。野外教育の分野においては、子どもたちに行う組織キャンプもサービス製品であり、顧客に販売している商品の1つといえる。したがって、野外教育の分野においてもマーケティングなどの研究を行う必要がある。

そこで、同じサービス製品を対象としているスポーツマネジメント分野で行われている研究などの研究方法等を参考に、子どもたちの社会教育の一環として各地で実施されている組織キャンプというサービス製品に焦点をあて、組織キャンプのプロダクト構造を明らかにすることにした。

組織キャンプのプロダクトを明らかにすることは組織キャンプというサービス製品についての理解を深めることでもあり、マーケティングを行うための基礎的な資料となる。したがって、プロダクトの構造を明らかにすることは、組織キャンププログラムを提供する団体・組織に対して貴重な示唆を与えることができると考えられる。

=====

=====
■ P-1 ルーム1 13:00-13:18

【発表題目】

〈ONLINE×CAMP 空想キャンプ場〉の取組みと
今後の可能性について

【発表者】

○越前麻代 (SpringNeige キャンプ事業部 FamiCamp)



【簡易抄録】

私たちは千葉を中心に家族で参加するファミリーキャンプイベントの主催運営をしております。各業態で急速にオンライン化が進んでいますが“キャンプをオンラインで体験してもらう試み”の『空想キャンプ場』を2020年5月30日に開催しました。

全国から250組以上の申し込みがあり、キャンプ場さんによるプログラム、クッキングやヨガ体験など、with コロナ時代の意識共有など、13時から18時半まで、常時80名前後の参加者と一緒に、オンラインキャンプを楽しみ、その様子はTVやメディアにも取り上げられました。

そして空想キャンプ場企画の第二弾として、全国の子どもたち「キャンプにぴったりのゲームを作ってキャンプ場さんで売ってもらおう」というプロジェクトを行っています。お出かけもできなかった夏休み、ZOOMで8回の企画会議を重ね、子どもたちが0から考えたゲームを作りあげました。現在はクラウドファンディングで商品化する資金を募集しています。

本来アウトドアとは対極にある「オンライン」と「CAMP」を掛け合わせた試みがどのように進んでいったのか、これからの可能性についてなどお話しさせていただけたらと思っています。

=====
■ P-2 ルーム1 13:20-13:38

【発表題目】

コロナでも四季冒険

【発表者】

○近藤みのり (いこーよ四季冒険部インターン)
稲垣樹 (いこーよ四季冒険部インターン)



【簡易抄録】

私たち四季冒険部は、子どもたちの可能性を広げるため、コロナ対策を徹底した上で、この夏、親子向けイベントを実施した。その中でも特に私たちはフェイスシールドに焦点を当てた。

「カブトムシ探し」では、額に固定するタイプと眼鏡をかけるように着用するタイプの2種類のフェイスシールドを試用し、比較した。どちらも顔全体を覆って飛沫による感染を防止するタイプのものである。イベント当日は雨の予報もあり、湿度の高い日だった。そのため、どちらのフェイスシールドを着用しても、次第に蒸れてシールド面が曇って視界が悪くなり、ほぼ何も見えない状態となった。

「清流探検」では、下見の際に本番を想定し、フェイスシールドをつけて川を歩いた。このイベントではライフガードを着用し、その使い方を教えるために水に入るため、その際にシールド面が濡れることで視界が悪くなることが分かった。それを踏まえ、イベント当日は、額に固定して口周りを覆うタイプのマウスガードを使用した。こちらはフェイスシールドのように曇りや水滴による視界不良が起こらないことが確認できた。そして、その後もどのようなタイプが向いているか試行錯誤した。

=====

■ P-3 ルーム 2 13:00-13:18

【発表題目】

ろう・難聴児のためのオンラインキャンプ
プログラムの試み：デフ・アドベンチャー・
キャンプ・オンライン 2020



【発表者】

○針ヶ谷 雅子（ろう・難聴児の体験活動を支える会）

【簡易抄録】

COVID-19 感染拡大の影響で、計画していた8泊9日のキャンプが実施できなくなった。ろう・難聴の子どもの貴重な自然体験や生活体験の機会が失われること、スタッフとして集まったろう者や学生の交流や学びの場も失われることを懸念し、オンラインでのプログラムを企画した。

2日間（各日半日）でロープワーク、星の観察、朝食作り、クラフトの4つを実施することとし、紙資料、ロープ、クラフトキットなどを前もって参加者に郵送しておき、当日はZoomを利用した。画面からでも手話での説明がきちんと伝わるように、スタッフ2名が参加者1名の担当となり、3人が互いの画面だけを見て活動する時間も用意した。ロープワークなどは、習得の進度が違うので、この方法で全員が無理なく実施できたようだった。また、スライドと画面隅の手話の両方を見てもらえるようゆっくりと進めた。

聴スタッフには手話が十分できない者もいたが、ろうスタッフがチャット機能で日本語に翻訳してくれたため、全体が通じるコミュニケーションを楽しめた。子どもたちが活動を楽しみ、学修できたこと、実際のキャンプへの期待が高まったことなどを、事後の感想からうかがうことができた。

=====

=====
■ P-4 ルーム2 13:20-13:38

【発表題目】

バーチャルキャンプをやってみよう！

【発表者】

○柳下史織（東京YWCA）
谷川真理（東京YWCA）



【簡易抄録】

この夏オンライン上で楽しんだゲームやキャンプソングを、キャンプミーティングに集まったコアなキャンプリーダーたちと一緒に楽しみましょう。

東京YWCAは、毎年夏、長野県野尻湖畔にある4万5千坪の野尻キャンプ場でサマーキャンプを実施していますが、今年は野尻に行けない夏を経験することになりました。戦争中に指令で中止せざるをえなかった時、長野県松代群発地震で一部中止にしたことはありましたが、初めて全てのキャンプを自ら中止としました。キャンプリーダー・調理スタッフ・職員のほとんどが関東圏から赴いていることや宿泊棟・調理場での感染防止が難しいことがその理由です。

しかし何もしないわけにはいきません。初めてオンラインに挑戦。リーダーが集まるオンラインメインホール、キャンパーとリーダーが集まるバーチャルキャンプ。キャンプサイトめぐりの動画やドローン映像でも盛り上がりました。タイムラグで失敗したり試行錯誤しながら、ミュートやチャットといった機能を活用して、色々なゲームやキャンプソングで盛り上がっています。次に再会するまでのつながりを体感する時間をつくります。

=====
■ P-5 ルーム2 13:40-13:58

【発表題目】

夏の自然体験活動・キャンプ事業実態調査報告

【発表者】

○高橋宏斗（公益社団法人日本キャンプ協会）

参考 7月版：https://camping.or.jp/news_release/15527.html

10月版：https://camping.or.jp/news_release/16388.html

=====
■ ルーム2では、14:00-15:00の間、「談話室」を設けます。

発表者の皆様、参加者の皆様の交流の場としてオープンします。

また、ブレイクアウト機能の利用することも可能ですので、ご自由に活用ください。